

岡山県感染症週報 2019年第50週 (12月9日～12月15日)

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2019年 第50週 (12/9～12/15) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第48週	5類感染症	百日咳	1名 (40代 女)
第49週	2類感染症	結核	1名 (30代 女)
	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名 (60代 男)
		梅毒	2名 (30代 男 1名、50代 男 1名)
第50週	2類感染症	結核	3名 (50代 女 1名、80代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名 (70代 男)
		百日咳	3名 (小学生 男 2名、40代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○インフルエンザは、県全体で685名 (定点あたり4.61→8.15人) の報告があり、前週から増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で351名 (定点あたり5.96→6.50人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第51週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が34施設でありました (12月16日～19日)。

1. [百日咳](#)は、2019年第50週に3名の報告があり、2019年第50週までの累計報告数は420名となりました (2018年の同時期：180名)。年代別では小学生 (194名、46%)、20歳以上 (102名、24%)、0～6歳の乳幼児 (77名、18%) の順で多くなっています。地域別では、備中地域 (129名、31%)、岡山市 (115名、27%)、倉敷市 (94名、22%) の順で多くなっています。百日咳は、ワクチン未接種の乳幼児が患すると無呼吸発作などを起こすことがあり、重篤化しやすく注意が必要です。特に成人の感染時は、風邪などを見分けがつかないまま、感染が広がる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診することが重要です。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。
2. [インフルエンザ](#)は、県全体で685名 (定点あたり4.61→8.15人) の報告があり、前週から増加しました。岡山県は、『[インフルエンザ注意報](#)』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市 (11.63人)、備中地域 (10.58人)、岡山市 (8.14人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2019/20年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中!](#)』をご覧ください。
3. [感染性胃腸炎](#)は、県全体で351名 (定点あたり5.96→6.50人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、岡山市 (10.50人)、備北地域 (10.25人)、備前地域 (6.50人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めましょう。

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★★★★	RSウイルス感染症	➡	★
咽頭結膜熱	➡	★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★★
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	➡	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	➡	★★	細菌性髄膜炎	➡	
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	⬆	★
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移： ⬆：大幅な増加 ➡：増加 ➡：ほぼ増減なし ➡：減少 ⬆：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

年末年始に海外へ渡航される方へ

海外には、日本国内に存在しない感染症が多くあります。
 海外の渡航先の感染症に対する予防対策が必要です。

出発前の注意

- ・感染症に対する正しい知識と予防に関する方法を身に付けましょう。
- ・渡航先の感染症の発生状況に関する最新の情報や注意事項を確認しましょう。
- ・これまで受けた予防接種について確認し、予防対策が不十分なものがあれば、予防接種を検討しましょう。

旅行中の注意

- ・生水、氷、カットフルーツ、サラダやラクダの生乳など、火が通っていないものを飲食することは避けましょう。
- ・肌の露出を少なくする、こまめに虫よけ剤(ディートやイカリジン含有)を使用するなど蚊やダニに刺されないように注意しましょう。
- ・動物には、むやみに近づいたり、触らないようにしましょう。
 (狂犬病、中東呼吸器症候群(MERS)や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあります。)
- ・帰宅後は、しっかり手洗いをしましょう。



©岡山県「ももっち・うらっち」

帰国した後に

- ・帰国時に発熱や下痢などの症状がある方は、空港または海港の検疫所に相談してください。
- ・帰国時に症状がなくても、その後体調が悪くなったときは、早めに医療機関を受診し、その際は必ず渡航先も伝えてください。

[海外へ渡航される皆様へ \(厚生労働省\)](#)

[海外へ渡航される皆さまへ！ \(厚生労働省検疫所 FORTH\)](#)



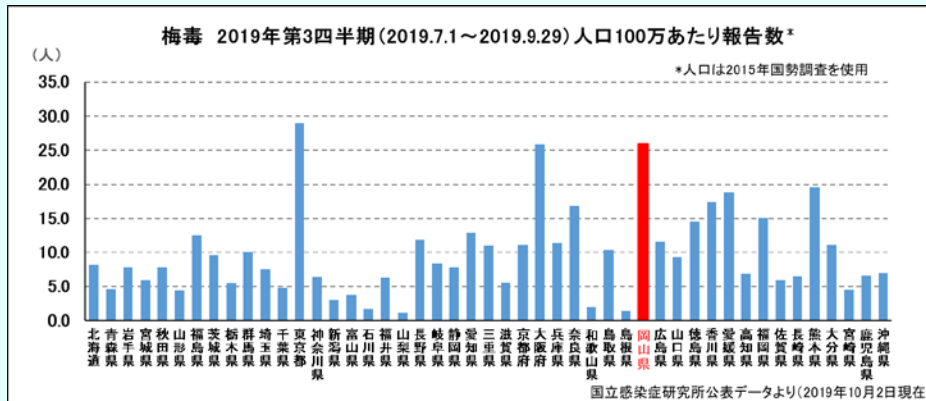
梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

梅毒トレポネーマの電子顕微鏡写真
(国立感染症研究所 HP より)

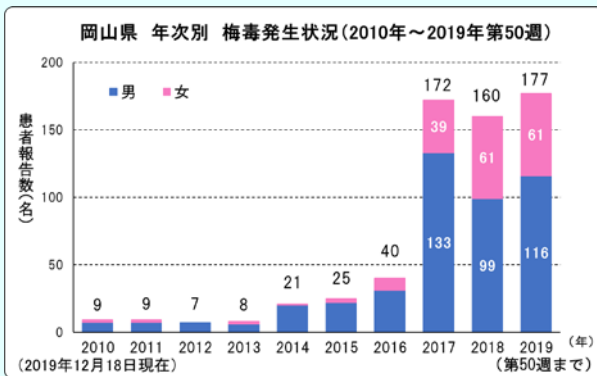
岡山県は梅毒の患者報告数が多く、2019年第3四半期の人口100万当たりの報告数が東京都に次ぎ全国2位となりました(なお、2018年1年間では大阪府、東京都に次ぎ全国3位)。全国的にも、近年患者数は増加傾向を示しており、注意が必要な状況です。

☆梅毒等性感染症の症状・診断等の情報はこちら ⇒ [性感染症（国立感染症研究所）](#)

☆海外渡航時も注意を！ ⇒ [性行為感染症（厚生労働省検疫所 FORTH）](#)

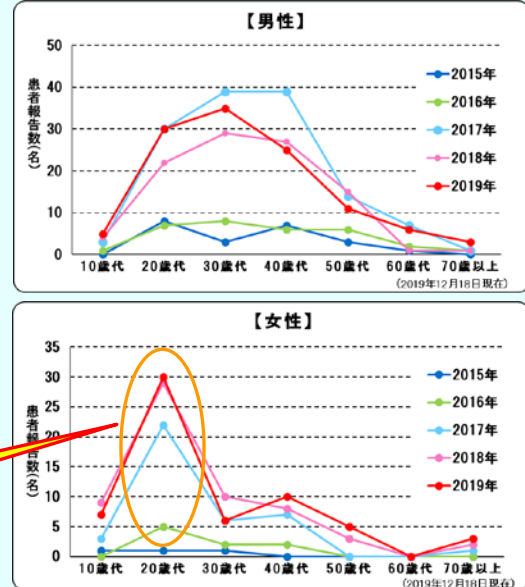


年次別 性別 梅毒発生状況（岡山県）



20歳代の女性が
年々増えています！

性別 年齢階級別 梅毒発生状況（岡山県）



岡山県の保健所・支所では梅毒等の性感染症検査を無料・匿名で受けることができます！

*岡山県の保健所(岡山市・倉敷市を除く)では、梅毒以外にも HIV・性器クラミジア・B型肝炎・C型肝炎の検査も同時に受けることができます。

*検査は無料・匿名で受けることができます。

*通常検査では1週間後、迅速検査では1時間後に結果をお知らせしています。

*確実な検査結果を得るためには、感染機会のあった日から、3か月経過後に検査することをおすすめします。

*事前に電話で予約が必要です(保健所によっては予約不要の日時もあります)。

○県内11か所の保健所・支所における性感染症等検査の日時などはこちらから

⇒ [【令和元年度 保健所におけるHIV検査・性感染症検査・肝炎検査日時】](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます](#) (岡山県 健康推進課)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#) をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、全国的に始まりました(2019年4月から2022年3月31日まで)。

今年度は**40~47歳**の方を対象に、市町村から風しんクーポン券が送付されており、以下のリストに掲載されている医療機関で、無料で抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。



©岡山県「ももっち」

岡山県の2019年4月~9月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、13.9%となっています!

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について\(厚生労働省\)](#)
[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)

インフルエンザ週報 2019年 第50週 (12月9日～12月15日)

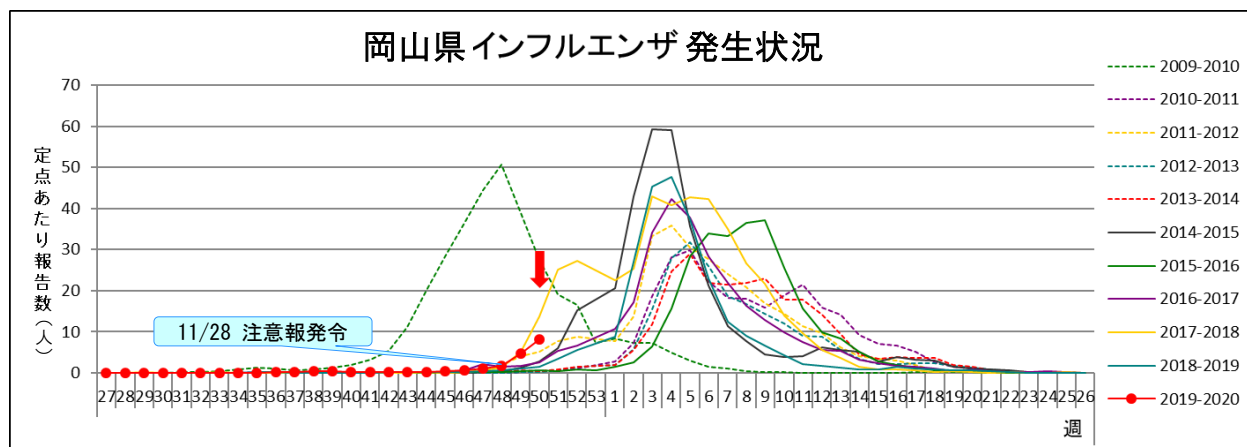
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で685名(定点あたり8.15人)の報告がありました(84定点医療機関報告)。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が28施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者3名の報告がありました。

【第51週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が34施設でありました(12月16日～19日)。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第27週～翌年第26週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で685名(定点あたり4.61→8.15人)の報告があり、前週から増加しました。岡山県は、「**インフルエンザ注意報**」を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市(11.63人)、備中地域(10.58人)、岡山市(8.14人)の順で定点あたり報告数が増えており、倉敷市および備中地域では発生レベル2となりました。県内の発生状況に注意するとともに、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。

◆インフルエンザの流行シーズンです。感染予防に努めましょう◆

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みを避けましょう。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな?という時には 】

- ・ 早めに医療機関を受診しましょう(受診時はマスクを着用してください)。
- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『**咳エチケット**』を心がけましょう。

『咳エチケット』～咳やくしゃみをするときは～

1. 周囲の人からなるべく離れましょう。
2. 他の人から顔をそらせ、ティッシュや手で口と鼻を覆いましょう。
3. 口と鼻を覆った手は、すぐに石鹸で丁寧に洗いましょう。
4. 咳やくしゃみが出ている間は、マスクを着用しましょう。

- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。



1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	685	↑	備 中	患者数	127	↑
	定点あたり	8.15			定点あたり	10.58	
岡山市	患者数	179	↑	備 北	患者数	17	↑
	定点あたり	8.14			定点あたり	2.83	
倉敷市	患者数	186	↑	真 庭	患者数	3	↑
	定点あたり	11.63			定点あたり	1.00	
備 前	患者数	114	↑	美 作	患者数	59	↑
	定点あたり	7.60			定点あたり	5.90	

【記号の説明】前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

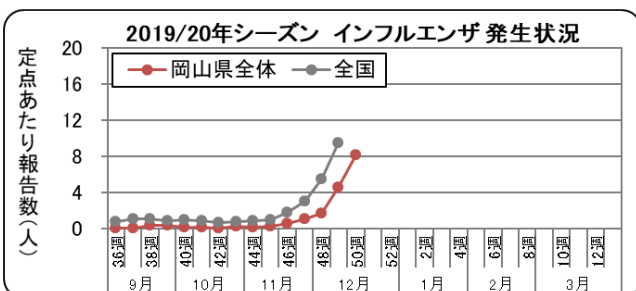
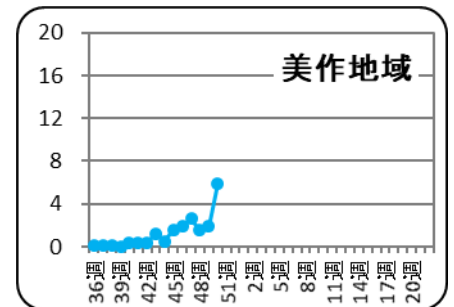
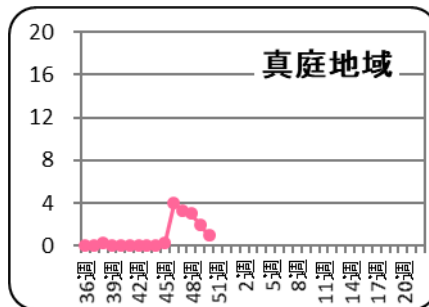
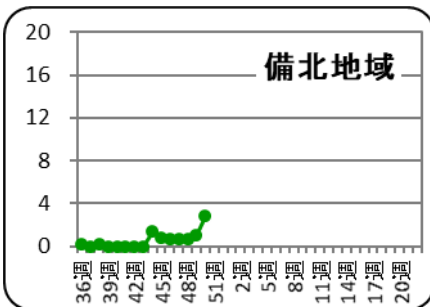
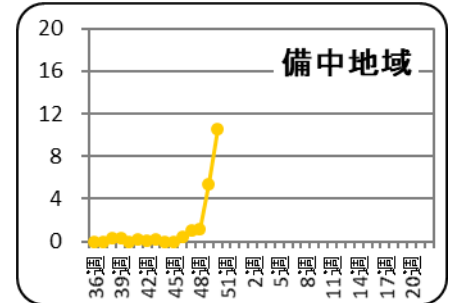
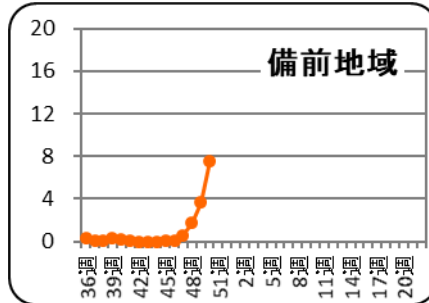
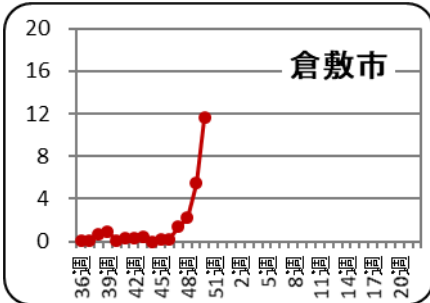
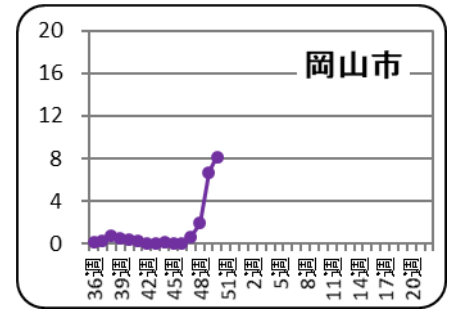
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

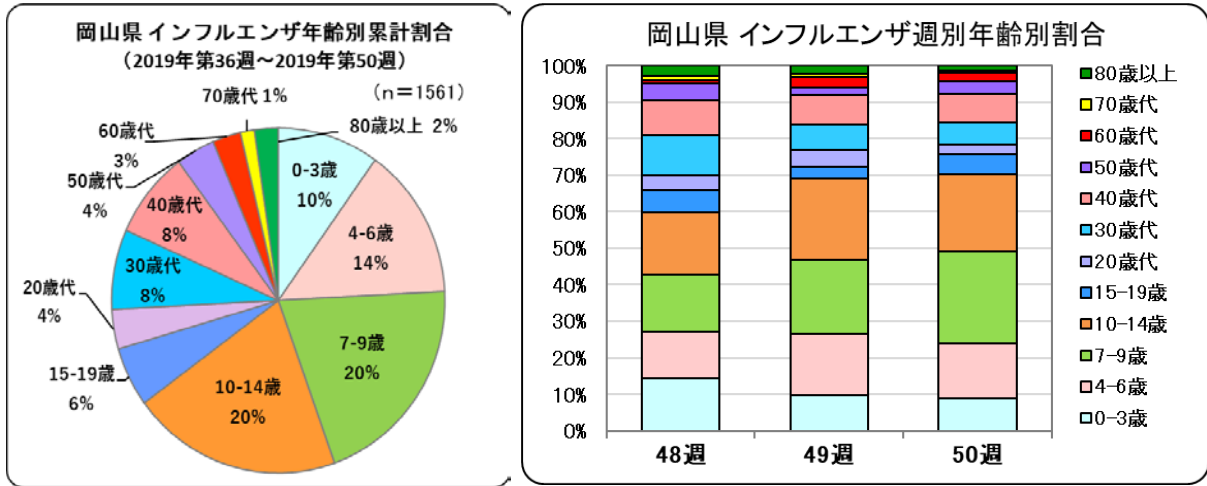


全国集計 2019 年第 49 週（12/2～12/8）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 9.52 人となりました。都道府県別では、北海道（25.11 人）、青森県（21.88 人）、富山県（19.31 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。全都道府県で流行開始の目安（定点あたり 1.00 人）を超えています。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

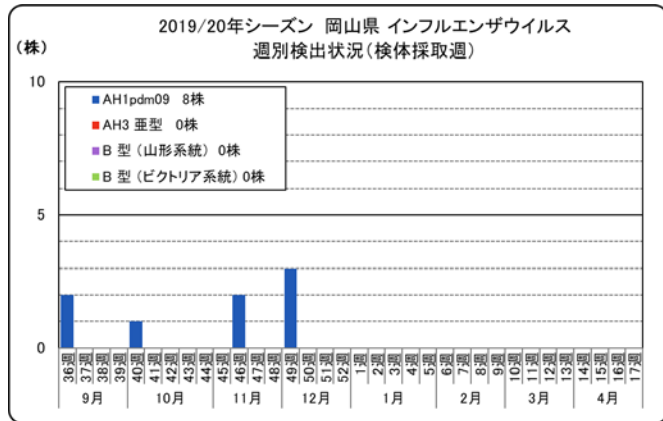
2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、以下のとおりとなっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況

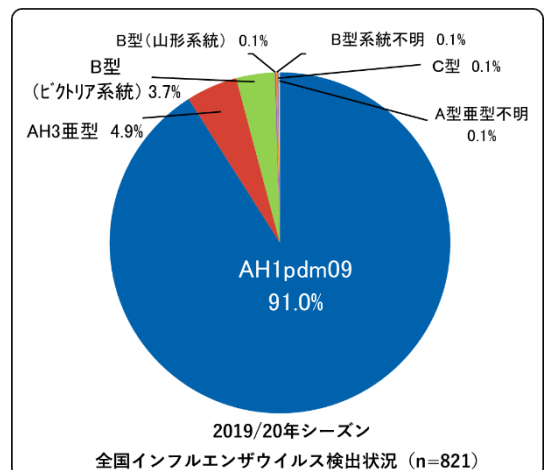
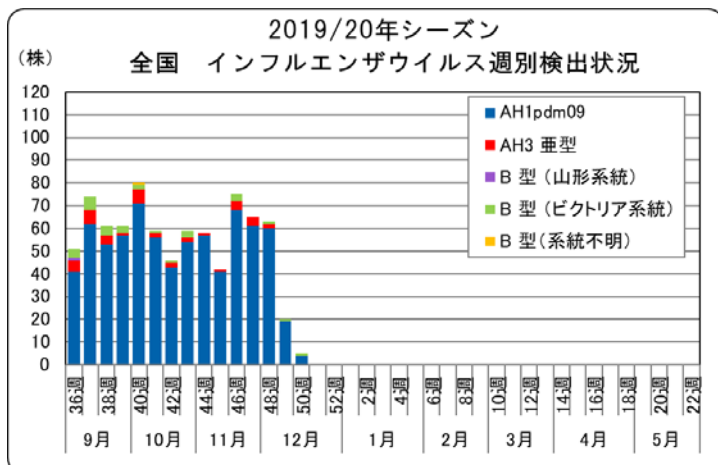
2019年第50週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは3株（詳細は下表参照）でした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは8株で、全てAH1pdm09です。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2019年第49週(12/2～12/8)	2019/12/2	倉敷市	50代	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2019年第49週(12/2～12/8)	2019/12/2	備中	小学生	女	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2019年第49週(12/2～12/8)	2019/12/4	備中	小学生	女	

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が747株、AH3亜型が40株、B型が32株（ビクトリア系統30株・山形系統1株・系統不明1株）、C型1株、A型亜型不明1株となっています（12月18日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

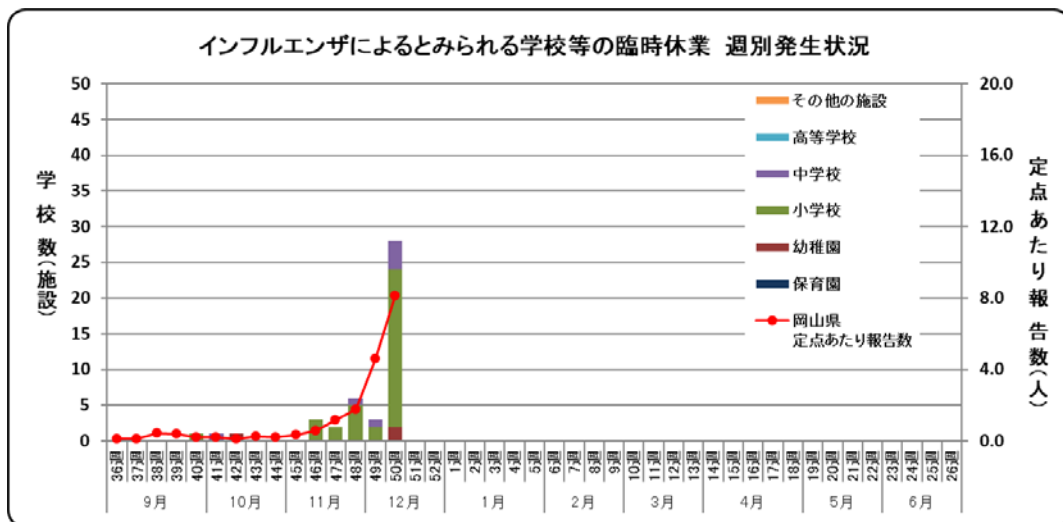


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、28施設でありました。

【第50週 臨時休業施設数】

▽岡山市 8 ▽倉敷市 5 ▽笠岡市 2 ▽総社市 4 ▽瀬戸内市 2
 ▽赤磐市 1 ▽美作市 1 ▽和気町 1 ▽早島町 1 ▽矢掛町 1
 ▽鏡野町 2



1) 臨時休業施設数の内訳

第50週:28施設

累計:45施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	—	2	3	22	35	4	7	0	—	0	—

2) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

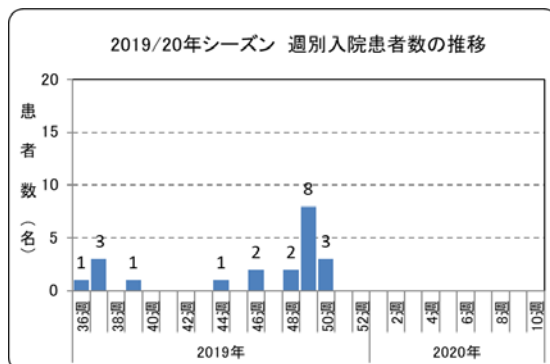
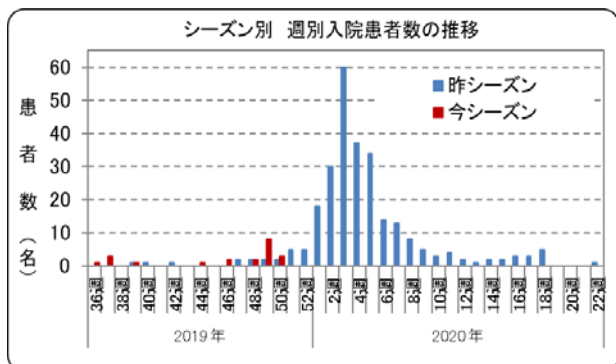
* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	399	685	309	496	28	45	0	0	9	18	19	27	R1. 9. 30
岡山市	127	183	111	165	8	11	0	—	2	3	6	8	R1. 9. 30
倉敷市	79	124	58	103	5	8	0	—	0	—	5	8	R1. 10. 15
備前地域	59	83	40	56	4	6	0	—	1	1	3	5	R1. 11. 21
備中地域	103	197	81	109	8	11	0	—	3	5	5	6	R1. 11. 11
備北地域	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	0	—	—
真庭地域	0	7	0	6	0	1	0	—	0	1	0	—	R1. 11. 13
美作地域	31	91	19	57	3	8	0	—	3	8	0	—	R1. 10. 8

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、3名（10～14歳1名、70～79歳2名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第50週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数				1							2		3
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*													
頭部MRI検査(予定含)*				1									1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず											2		2

* 重複あり

【2019年9月2日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	2		2	2	1	1			2		5	6	21
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*											1	1	2
頭部CT検査(予定含)*	1				1						1		3
頭部MRI検査(予定含)*				1	1						1		3
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず	1		2	1		1			2		4	5	16

* 重複あり

◆◆インフルエンザの予防接種を受けましょう！◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、[2週間程度かかります。](#)

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

- * 65歳以上の方
- * 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）により免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

[令和元年度 今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2019/20 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数 2019年 50週(定点把握)

(2019/12/09～2019/12/15)

2019年12月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	685	8.15	179	8.14	186	11.63	114	7.60	127	10.58	17	2.83	3	1.00	59	5.90
RSウイルス感染症	18	0.33	12	0.86	4	0.36	1	0.10	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	29	0.54	10	0.71	5	0.45	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	9	1.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	25	1.79	21	1.91	12	1.20	8	1.14	7	1.75	2	1.00	15	2.50
感染性胃腸炎	351	6.50	147	10.50	40	3.64	65	6.50	27	3.86	41	10.25	9	4.50	22	3.67
水痘	28	0.52	12	0.86	7	0.64	2	0.20	3	0.43	-	-	2	1.00	2	0.33
手足口病	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	21	0.39	4	0.29	-	-	9	0.90	-	-	2	0.50	2	1.00	4	0.67
突発性発疹	19	0.35	7	0.50	8	0.73	2	0.20	1	0.14	1	0.25	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	0.13	6	0.43	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	6	1.20	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	0.40	1	1.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年 50週(発生レベル設定疾患)

(2019/12/09～2019/12/15)

2019年12月19日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	685	8.15	179	8.14	186	11.63	114	7.60	127	10.58	17	2.83	3	1.00	59	5.90
咽頭結膜熱	29	0.54	10	0.71	5	0.45	1	0.10	2	0.29	1	0.25	1	0.50	9	1.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	1.67	25	1.79	21	1.91	12	1.20	8	1.14	7	1.75	2	1.00	15	2.50
感染性胃腸炎	351	6.50	147	10.50	40	3.64	65	6.50	27	3.86	41	10.25	9	4.50	22	3.67
水痘	28	0.52	12	0.86	7	0.64	2	0.20	3	0.43	-	-	2	1.00	2	0.33
手足口病	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	21	0.39	4	0.29	-	-	9	0.90	-	-	2	0.50	2	1.00	4	0.67
ヘルパンギーナ	7	0.13	6	0.43	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	6	1.20	1	0.25	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2
濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第50週 2019/12/09～2019/12/15)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	685	7	5	12	17	19	22	23	59	69	62	42	144	38	18	41	54	24	15	5	9

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	18	3	5	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	29	-	2	7	6	1	5	2	1	-	1	2	1	-	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	90	-	-	5	7	5	13	9	10	6	9	8	10	1	7
感染性胃腸炎	351	6	15	54	39	37	29	29	24	18	12	11	29	8	40
水痘	28	1	-	-	2	1	-	4	2	2	3	5	7	1	-
手足口病	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	21	-	-	-	1	3	4	5	3	3	1	-	1	-	-
突発性発疹	19	-	6	12	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	-	-	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	3	-	-	-	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

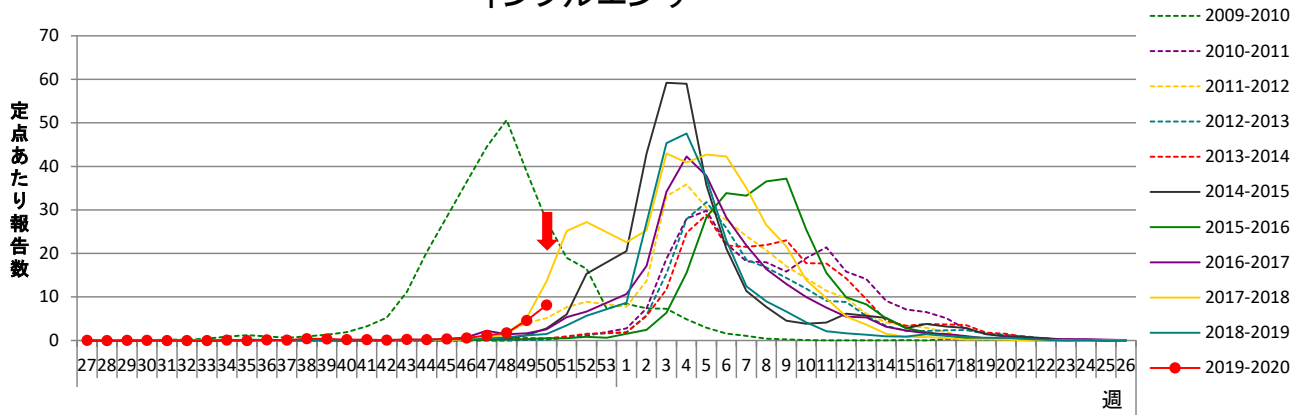
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

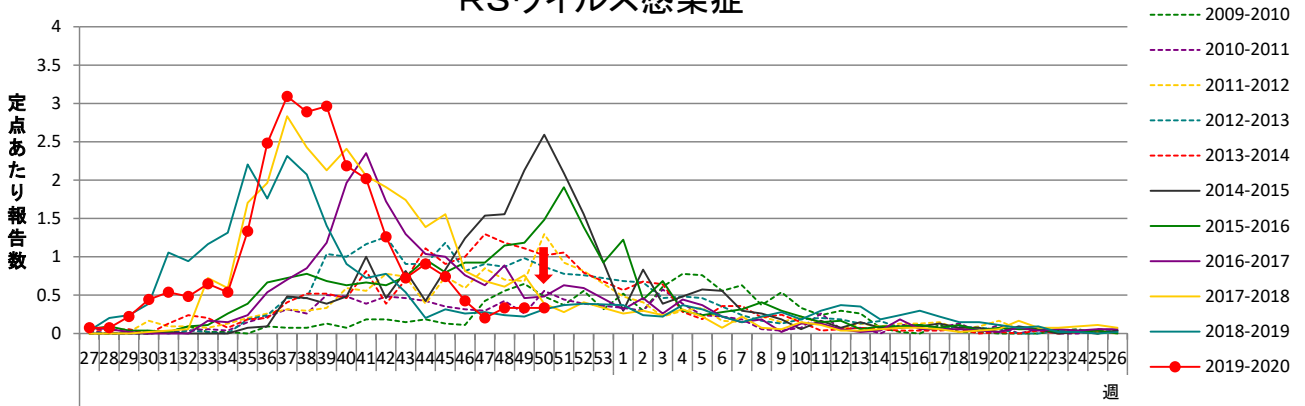
2019年 50週

分類	疾病名	2019			疾病名	2019			疾病名	2019		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	283	337	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	4	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	58	70
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	2
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	3	2
	デング熱	-	7	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	3	5
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	1	1	マラリア	-	-	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	1	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	54	83
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	1	14	15	ウイルス性肝炎	-	11	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	30
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	2	3	急性脳炎	-	17	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	5	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	6	14	後天性免疫不全症候群	-	9	18
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	4	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1
侵襲性肺炎球菌感染症		-	39	45	水痘(入院例に限る。)	-	9	3	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	177	160	播種性クリプトコックス症	-	1	2	破傷風	-	2	2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	3	-	百日咳	3	420	187
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-

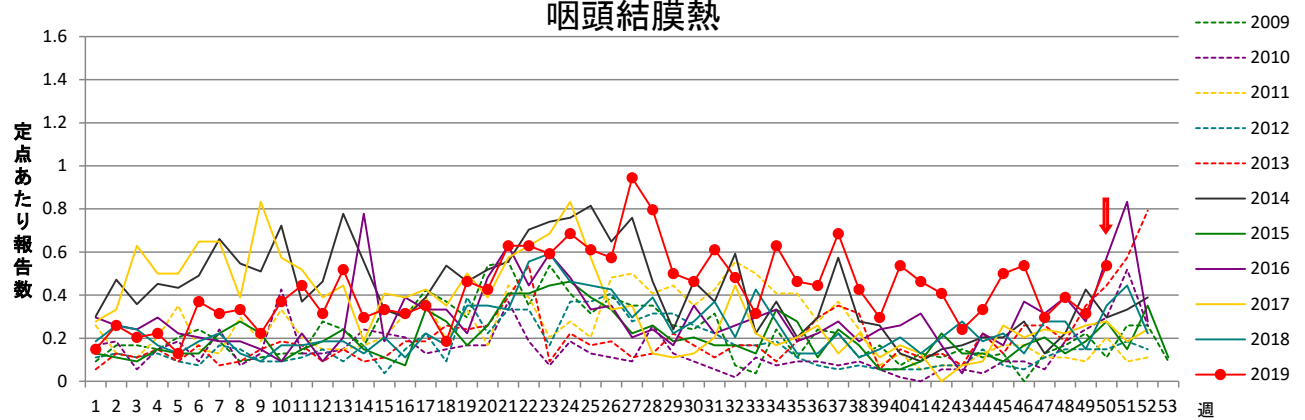
インフルエンザ



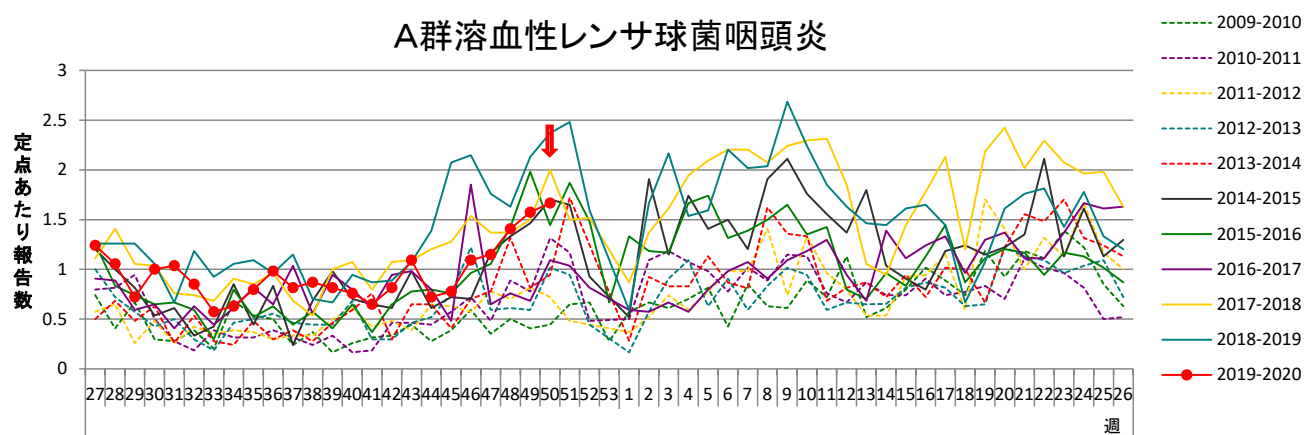
RSウイルス感染症



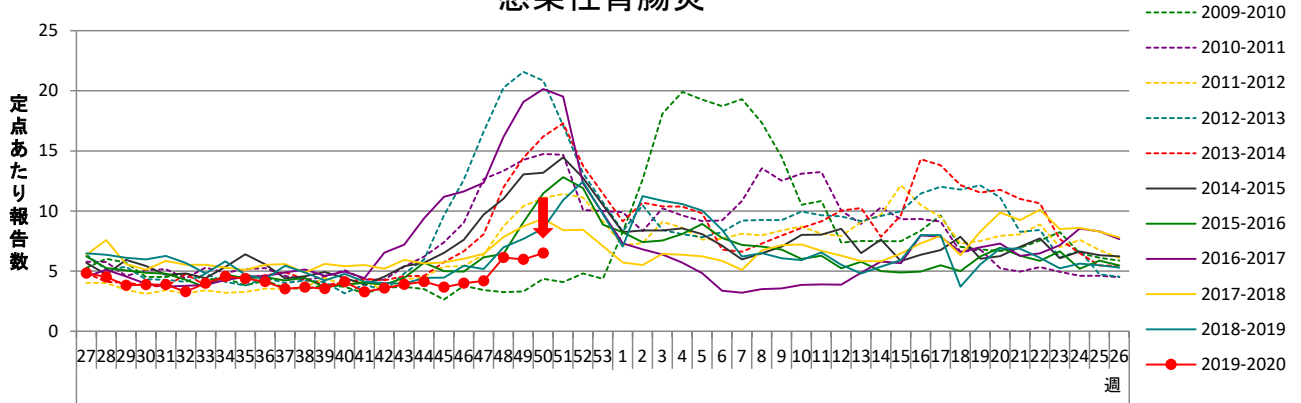
咽頭結膜熱



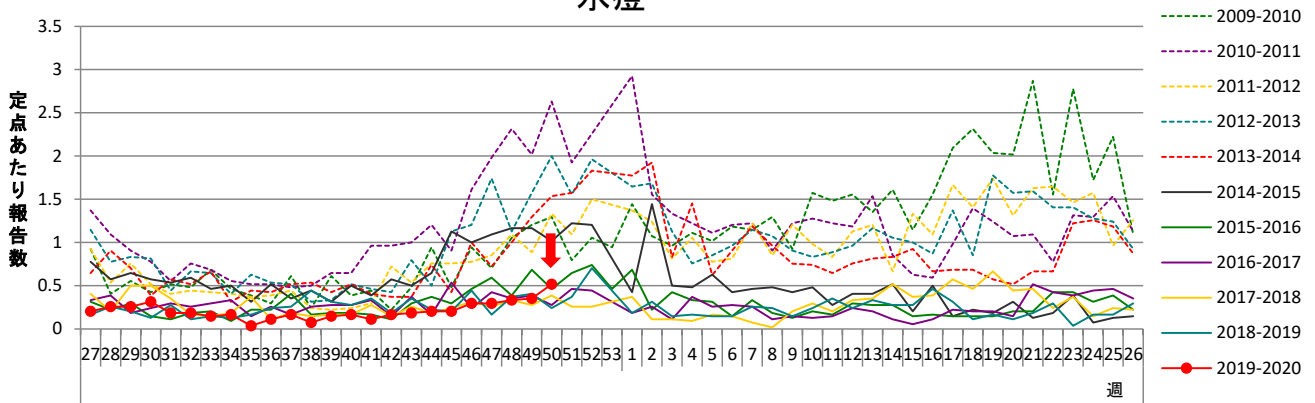
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



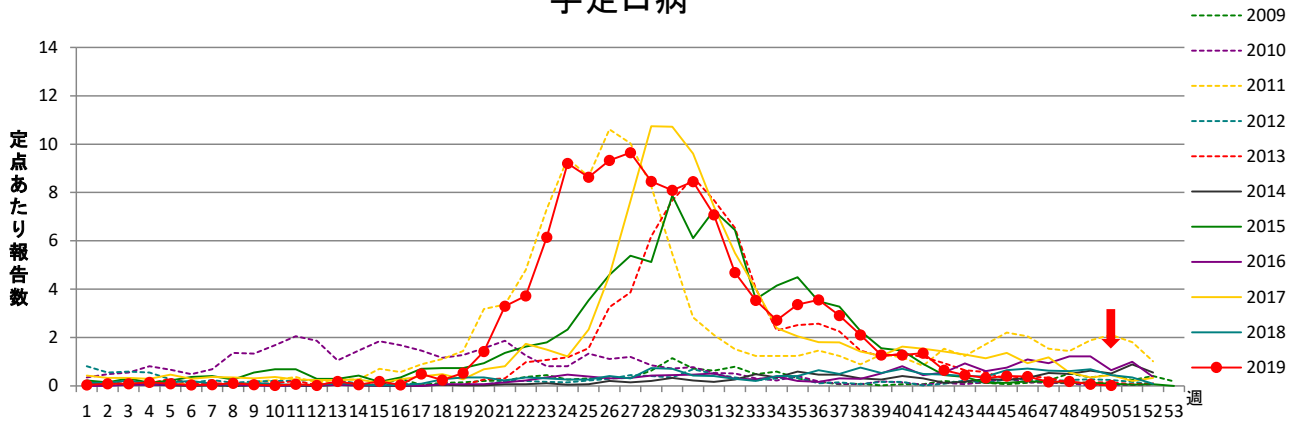
感染性胃腸炎



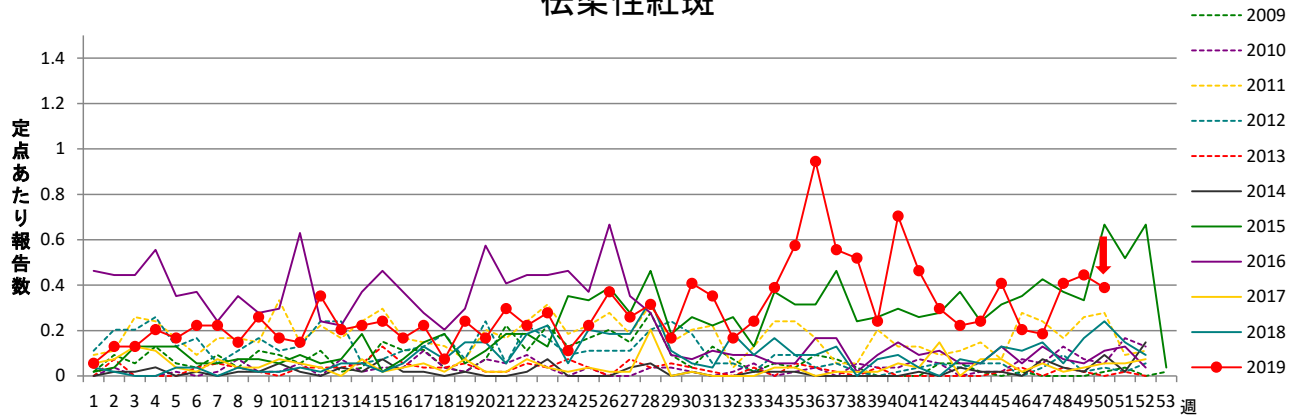
水痘



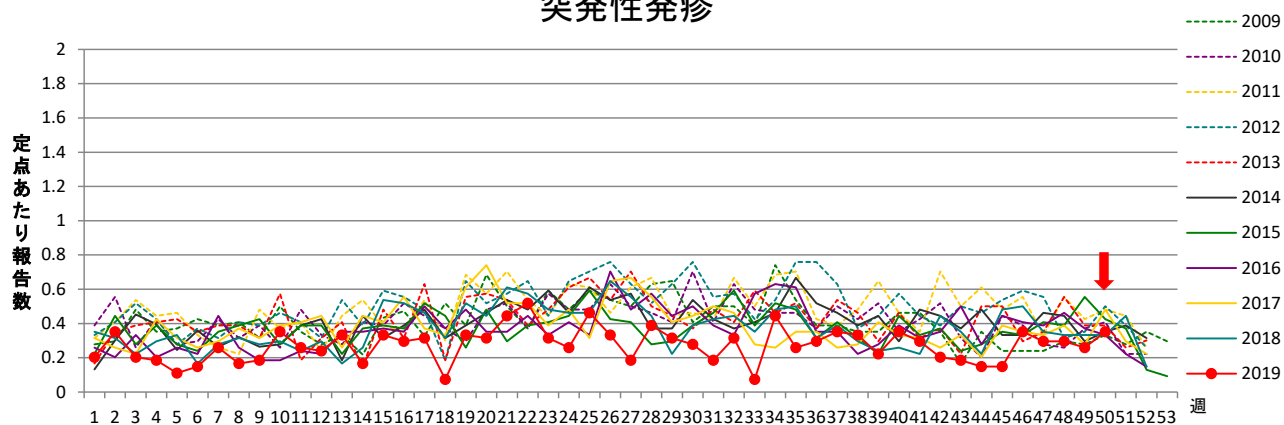
手足口病



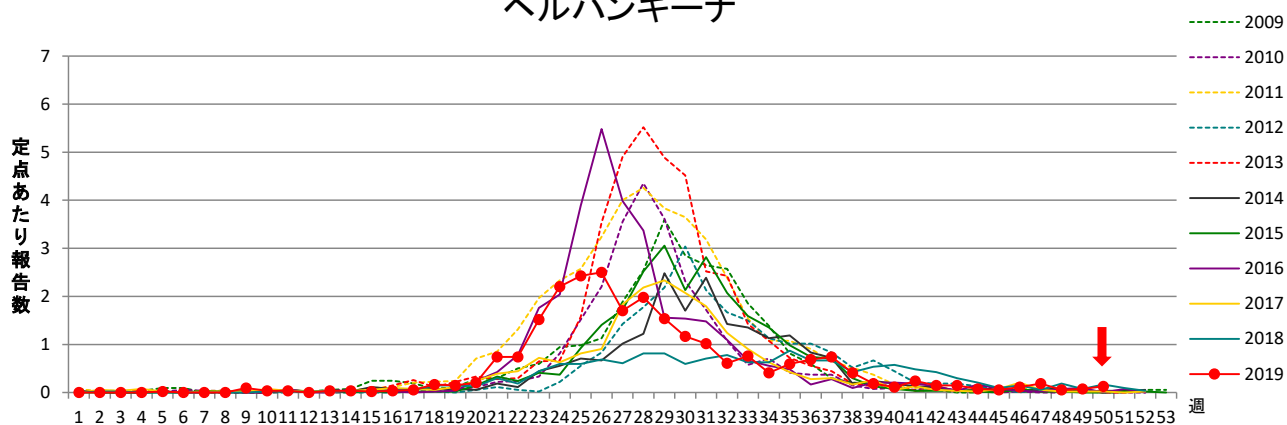
伝染性紅斑



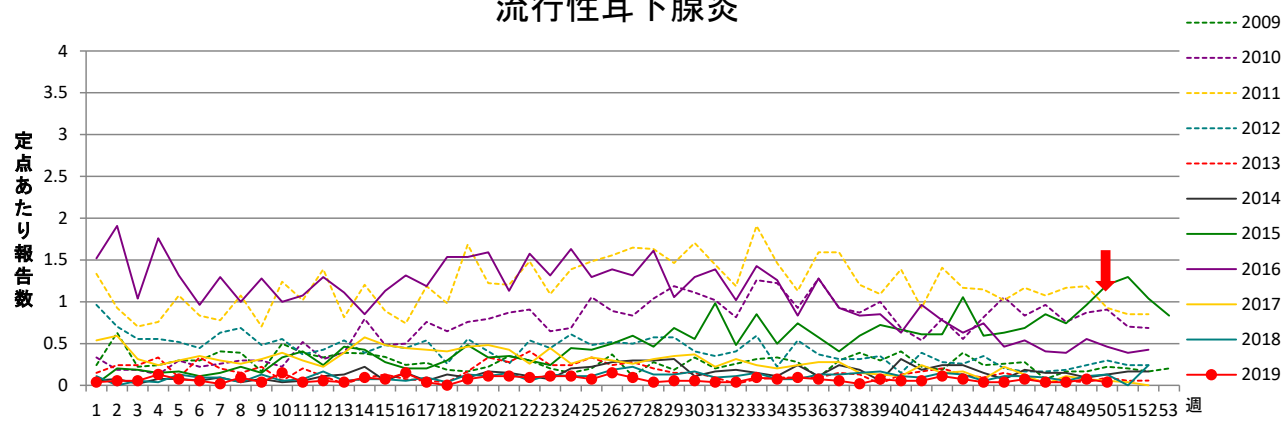
突発性発疹



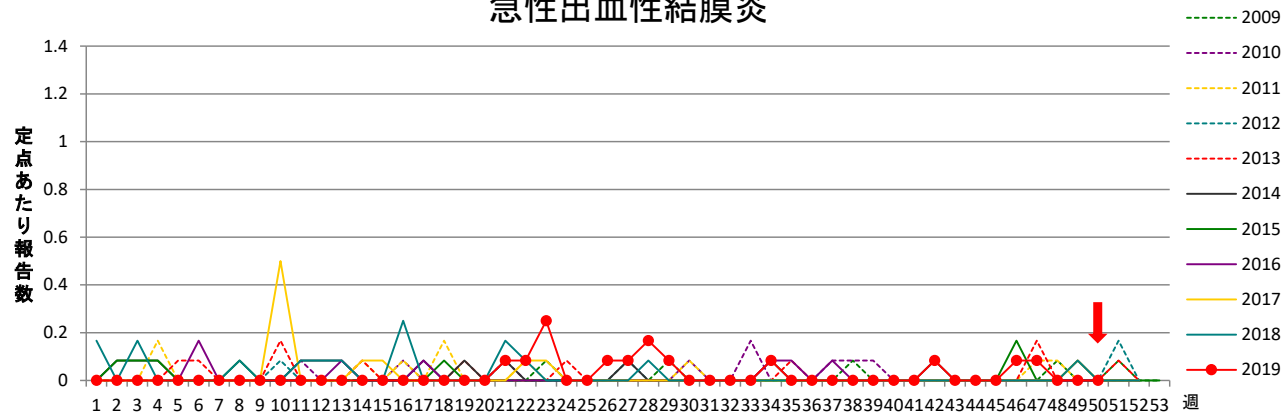
ヘルパンギーナ



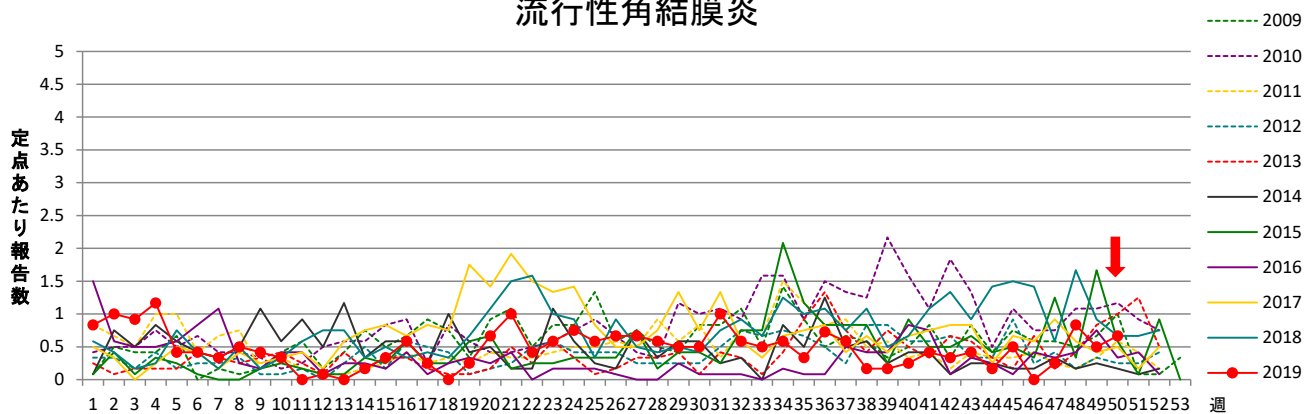
流行性耳下腺炎



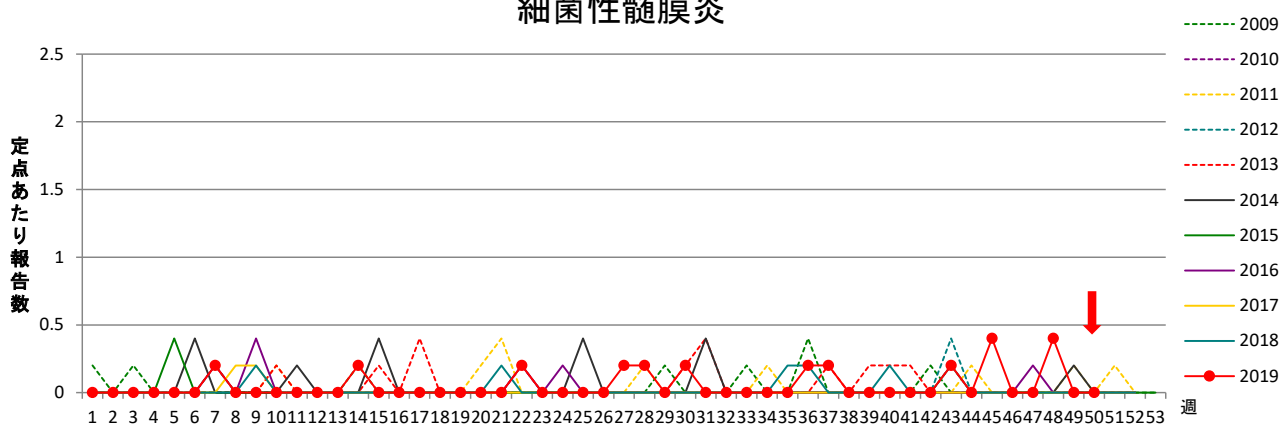
急性出血性結膜炎



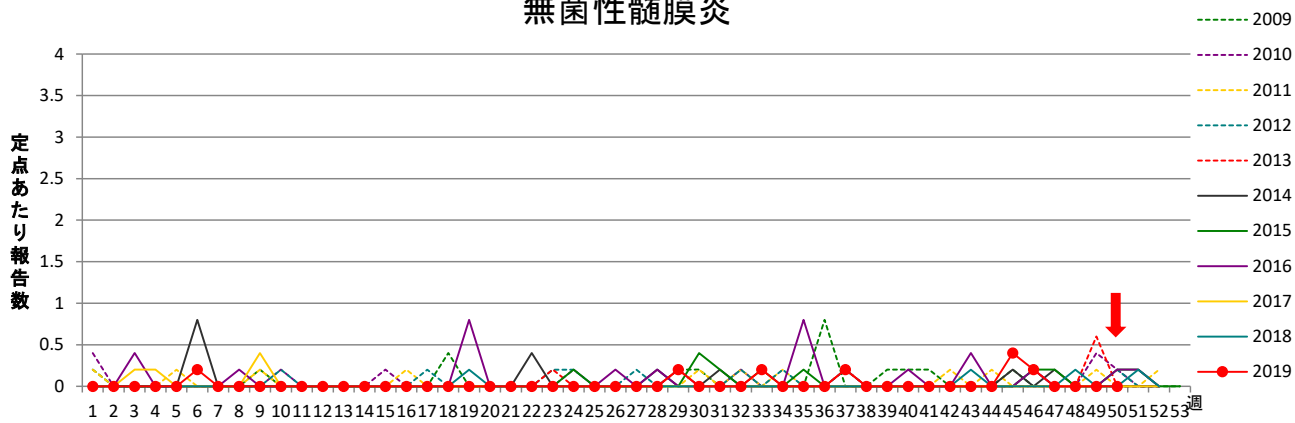
流行性角結膜炎



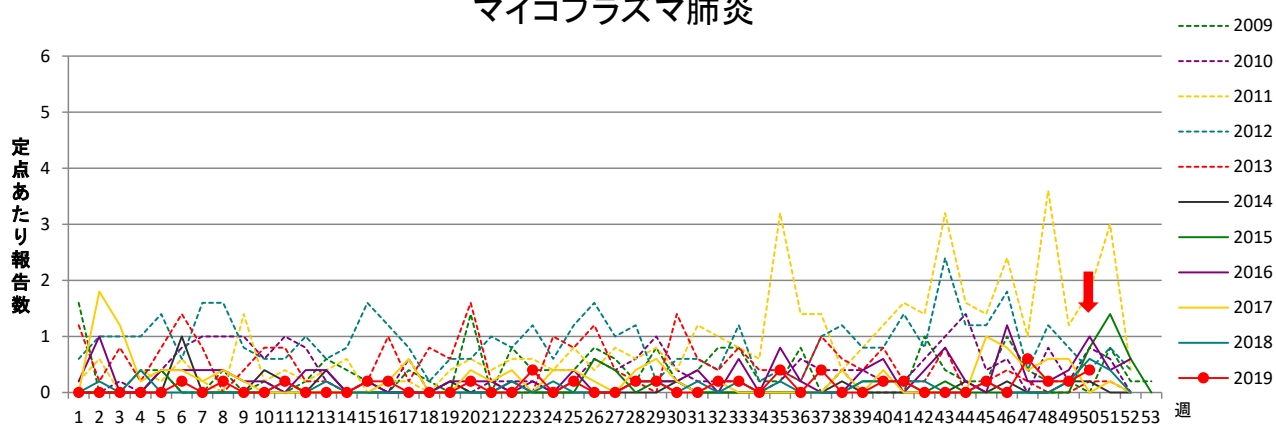
細菌性髄膜炎



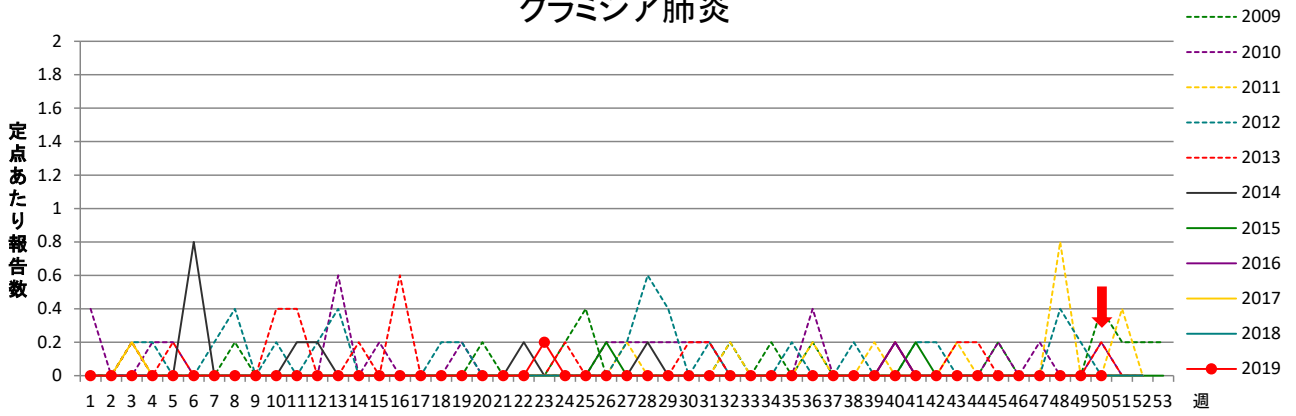
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

